

飛鳥資料館の秘蔵物(3) 武人像

飛鳥資料館のロビーには、甲を身にまとった厳しい姿の武人が現在展示されています。この像は「武人君」という愛称で飛鳥資料館では親しまれています。

彼は、壬申の乱で戦ったであろう武将の姿を推定復元したもので、身にまとっている甲は飛鳥寺の塔心礎に埋納されていた鉄製の挂甲を参考としています。同時に展示している飛鳥寺に埋納された挂甲の出土状態のレプリカとあわせて見るとわかりやすいのではないでしょうか。

武人君は、展示や移動するのにも学芸員が一苦労するほどの重装備です。鉄製の甲を身にまとい、弓を構え、大刀をはじめとする様々な装備品を腰に下げていますが、これほどの装備は古代に末端の兵士にまで行き届いていませんでしたので、まさに「武将」クラスの装備品といえるでしょう。

来館者の方々には、イメージするのが難しい古代人の姿がつかみやすいとなかなか好評です。

(飛鳥資料館 成田 聖)



復元された武人の姿

開館時間：9:00～16:30（入館は16:00まで、年末年始・月曜休館） お問合せ：☎0744-54-3561（飛鳥資料館）

平城宮跡資料館 展示紹介 宮殿復原展示コーナーの調度たち

今年の正倉院展で16年ぶりの展示が話題となった瑠璃壺。めったにお目にかかれず正倉院宝物の数々を、資料館では（模造品ではありますが）、宮殿の寝室・書斎・居間・食卓の空間に、インテリアとして配置しています。

屏風、御床、厨子、双六、囲碁、琴、ガラス器は、正倉院宝物の実際の大きさ・形のままに再現。絨毯や几帳の柄は、正倉院宝物の生地模様を参考に作りました。

これら調度の傍には、平城宮・京から発掘された鏡、檜扇、櫛・かんざし、琴柱、動物を模った硯等、高貴な出土遺物も並んでいます。地上と地下に遺された宝物の共演をお楽しみください。（企画調整部 渡邊 淳子）

開館時間：9:00～16:30（入館は16:00まで、年末年始・月曜休館） お問合せ：☎0742-30-6753（連携推進課）



宮殿コーナーと食卓におかれた瑠璃壺(右)

■ お知らせ

飛鳥資料館 冬期企画展

2013年2月2日(土)～3月3日(日)

「飛鳥の考古学2012」

■ 記録

文化財担当者研修

○保存科学基礎Ⅰ(金属製遺物)課程

2012年10月2日～10日

6名

○保存科学基礎Ⅱ(木製遺物)課程

2012年10月11日～19日

6名

○遺跡情報記録調査課程

2012年10月23日～26日

9名

○土器・陶磁器調査課程

2012年11月12日～16日

17名

○文化財写真課程

2012年12月4日～14日

15名

○報告書作成課程

2012年12月14日～21日

24名

現地説明会

○飛鳥藤原第174次発掘調査(藤原宮朝堂院朝庭)

2012年11月23日

460名

飛鳥資料館 秋期特別展

2012年11月1日～12月2日

「花開く都城文化」

5,743名

平城宮跡資料館 秋期特別展

2012年10月20日～12月2日

「地下の正倉院・平城宮第一次大極殿院のすべて」 20,356名

特別講演会【東京会場】

2012年10月6日

400名

日中韓国際講演会

2012年10月20日

300名

第111回公開講演会

2012年11月3日

200名

■ 最近の本

○箱崎和久

『奇偉莊嚴の白鳳寺院 山田寺』シリーズ「遺跡を学ぶ」第85巻
新泉社 2012年11月

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.go.jp/>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2012年12月